

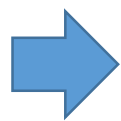
がん患者の復職支援の重要性

男性の2人に1人、
女性の3人に1人が、一生のどこかでがんと診断

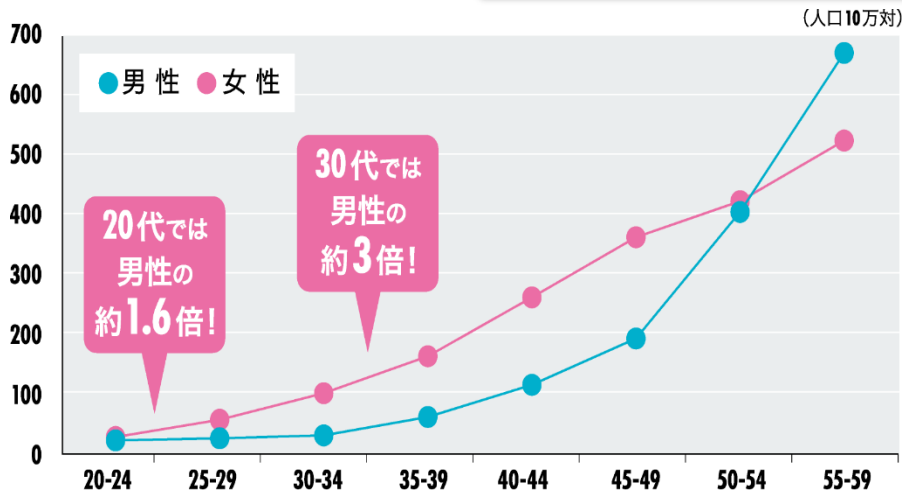
働く世代のがん患者が増加傾向（先進国）

➤ 少子高齢化

➤ 定年年齢の引き上げ、再雇用制度、働く女性の増加



がん患者の3人に1人は、働く世代（20万人/年以上）



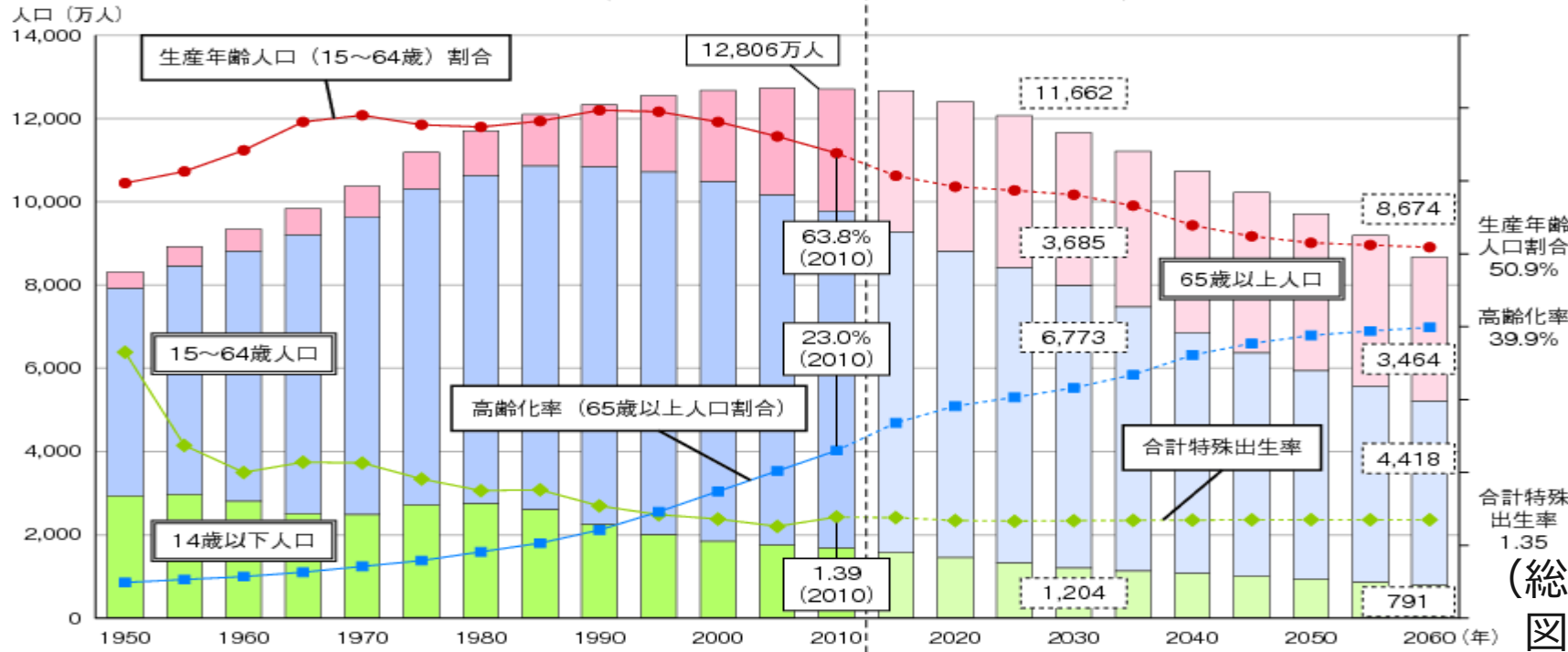
● 働く世代では、
女性の方が、男性よりがんになりやすい
乳がん、子宮頸がん・子宮体がん等

● 女性のがん罹患率：20代で男性の約1.6倍、
30代では男性の約3倍

働く世代の減少・高齢化に伴い、 がんサバイバーの就労問題は今後益々重要になる

実績値 (国勢調査等) ← | → 平成24年推計値 (日本の将来推計人口)

(©遠藤源樹)



(総務省ホームページ
図表1-2-1-6 日本の人口推移より)

今後は、女性とシニアの就労支援が重要

→女性のがんサバイバー (特に乳がん) と
60代のがんサバイバーの就労問題がより重要に…

(今まで、知識、経験、人的ネットワークなどで、
企業に多大な貢献をしてきた方が…)

ある日突然、がんと診断されたら・・・

- **治療に伴う不安（手術・化学療法・放射線療法）** （©遠藤源樹）

体力・気力の回復にどれほどの時間がかかるのか？

通院治療（抗がん剤治療など）を続けられるのか？

治療に伴う痛み、体力低下があっても、働けるのか？

- **経済面・費用に伴う不安**

働かないとお金が無くなる、職場に籍を残してくれるのか？

- **働くことへの不安**

復職しても、会社まで、毎日通勤できるだろうか？

短時間勤務できたらなあ…通院早退に対する後ろめたさ

元通りの仕事ができるだろうか？ 会社は許してくれるのか？

会社を辞めて、治療に専念した方がよいのか…再就職先は？

- **メンタルヘルス**

再発への不安、死への不安。うつ病になるかも。



がんサバイバーにおける、

- ・ 職場復帰までかかる平均的な日数は？
- ・ 復職率は？

(2015年5月発表：
がんサバイバーの病休追跡実態調査)

がんと確定診断される。
がんの種類、がんのステージなどにより、
治療方針を決めていく。

(©遠藤源樹)

A

B

Aパターン（年休等で対応可能）

内視鏡による治療、
部分的な外科手術など、
全身への負荷が少ない治療で、
済む場合

Bパターン（病休等の対応が必要）

・手術
・抗がん剤
・放射線治療など、
全身への負荷が大きい治療が必要な場合

A

B

年次有給休暇等を利用して、
数日から数週間の休務の後、
復職できる可能性が高い。

がんの治療後に、
復職できる確率、病休日数の
のおよそのデータがなかったために、
今後の見通しが立ちづらい。。。

- ・復職できそうなのか？退職すべきか？
- ・今後の生活設計は？
- ・自分の今後の人生は？

復 職

今回の大規模調査は、復職できる確率、
病休日数に関するデータです。

結果

表．がん種に層別化した病休開始日から365日後までの転帰 (1278人)

がん種	人数	男性	女性	診断時の平均年齢	時短勤務/ フルタイム 勤務までの 病休日数の 中央値	退職 N	死亡 N	病休 継続 N	フルタイム で復職 N	時短勤務 で復職 N	時短勤務/ フルタイム勤 務の比
胃がん	282	262	20	52.9	62 / 124	0	16	3	40	223	5.6
食道がん	67	64	3	54.7	123 / .	9	7	2	5	42	8.4
結腸・直腸がん	146	140	6	51.9	66.5/136.5	3	16	4	31	92	3.0
肺がん	162	143	19	54.1	96.5 / .	7	22	11	31	91	2.9
肝胆膵がん	98	91	7	54.4	194/ .	6	31	7	13	41	3.2
乳がん	97	0	97	48.1	91 / 209	2	1	6	15	72	4.8
女性生殖器がん	67	0	67	46.4	83 / 172	0	0	5	11	51	4.6
男性生殖器がん	78	78	0	53.0	60.5/ 124.5	4	1	5	16	52	3.3
尿路系腫瘍	53	52	1	53.2	52 / 127	0	7	1	15	30	2.0
血液系腫瘍	95	86	9	49.0	241/ .	1	12	19	14	48	3.4
他のがん	133	117	16	50.7	91 / 195	3	19	11	38	60	1.6
全体	1278	1033	245	51.9	80 / 201	35	132	74	229	802	3.5

図. がん種別の累積フルタイム復職率の推移 (1278人)

(遠藤らの復職コホート研究)

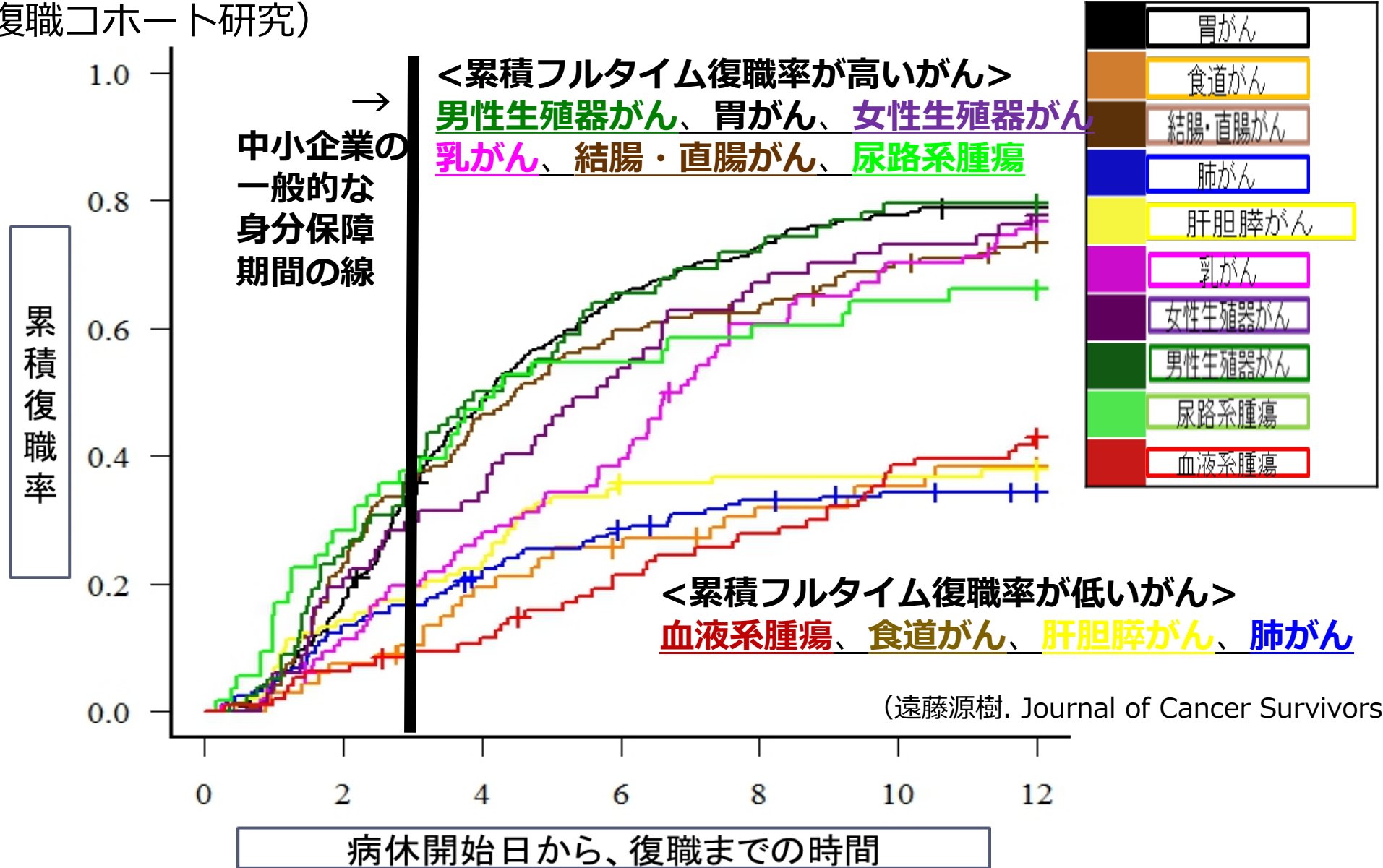
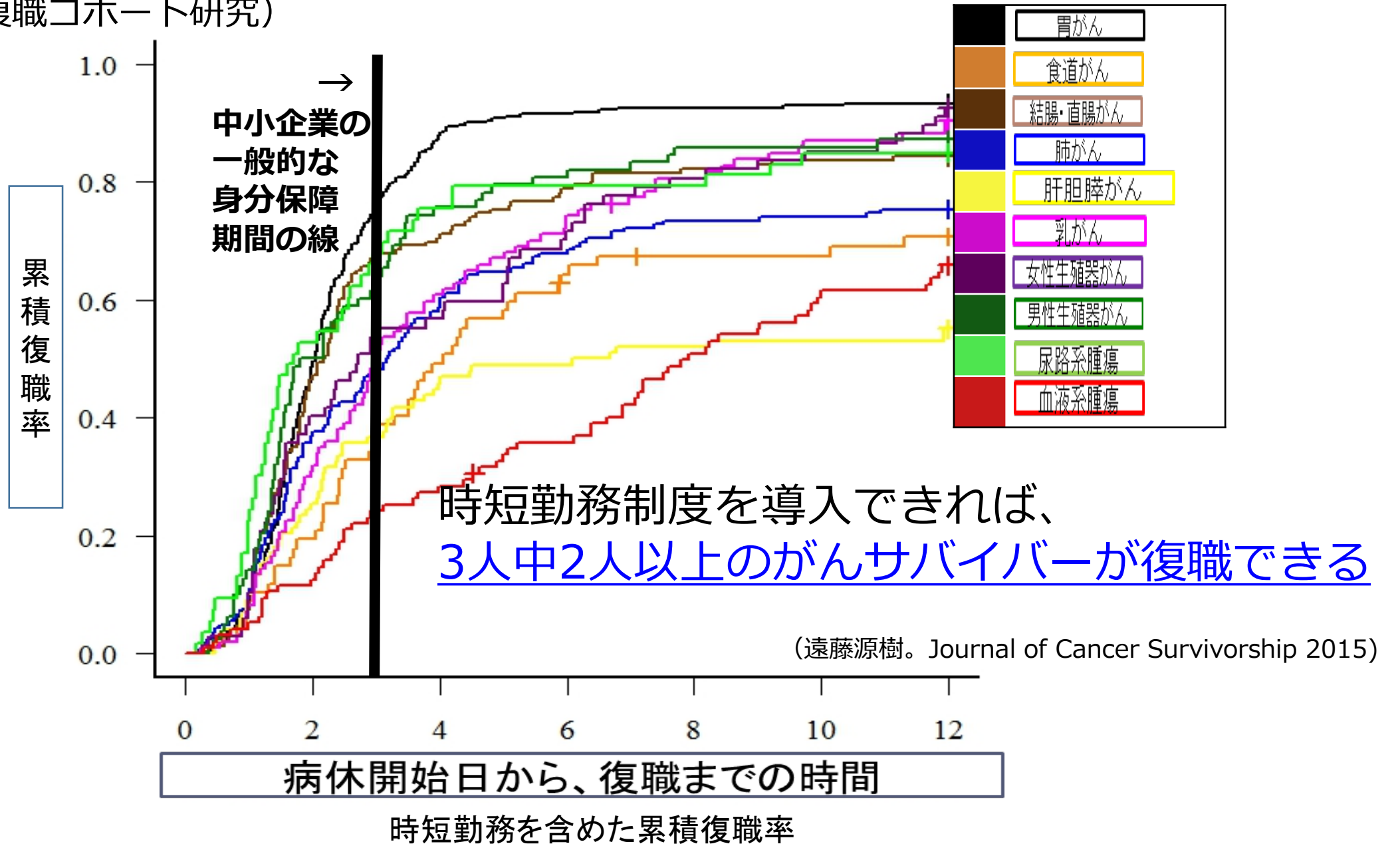


図. がん種別の累積復職率（時短勤務を含めた）の推移（1278人）

(遠藤らの復職コホート研究)



病休コホート研究から、示唆されること

(©遠藤源樹)

～日本で初めての「がんサバイバーの復職コホート研究」～

- がんで休んでからフルタイムで復職するまで：203日（約6ヶ月）
- 血液系腫瘍は、復職日までの日数が約1.5年と突出して長かった。
- 復職率（病休開始日から1年）：62.3%
- がんの種類ごとに復職率が大きく異なる
- 時短勤務制度が導入されれば、復職率は80.9%
病休日数は80日（約2か月半）
- 中小企業の一般的な身分保障期間は、3か月であるため、現在の制度下である限り、復職率の改善は望めない（多くが退職満了）。（復職コーディネーター育成、職場の受け入れ風土の改善を図ろうとしても、「がんと就労」の実態が現在も改善しない最大の理由。）
- 「がんと就労」改善のためには、『法整備』『偏見払拭』の2つが必要。

図. がんと診断・療養後365日までの全体像 (©遠藤源樹)

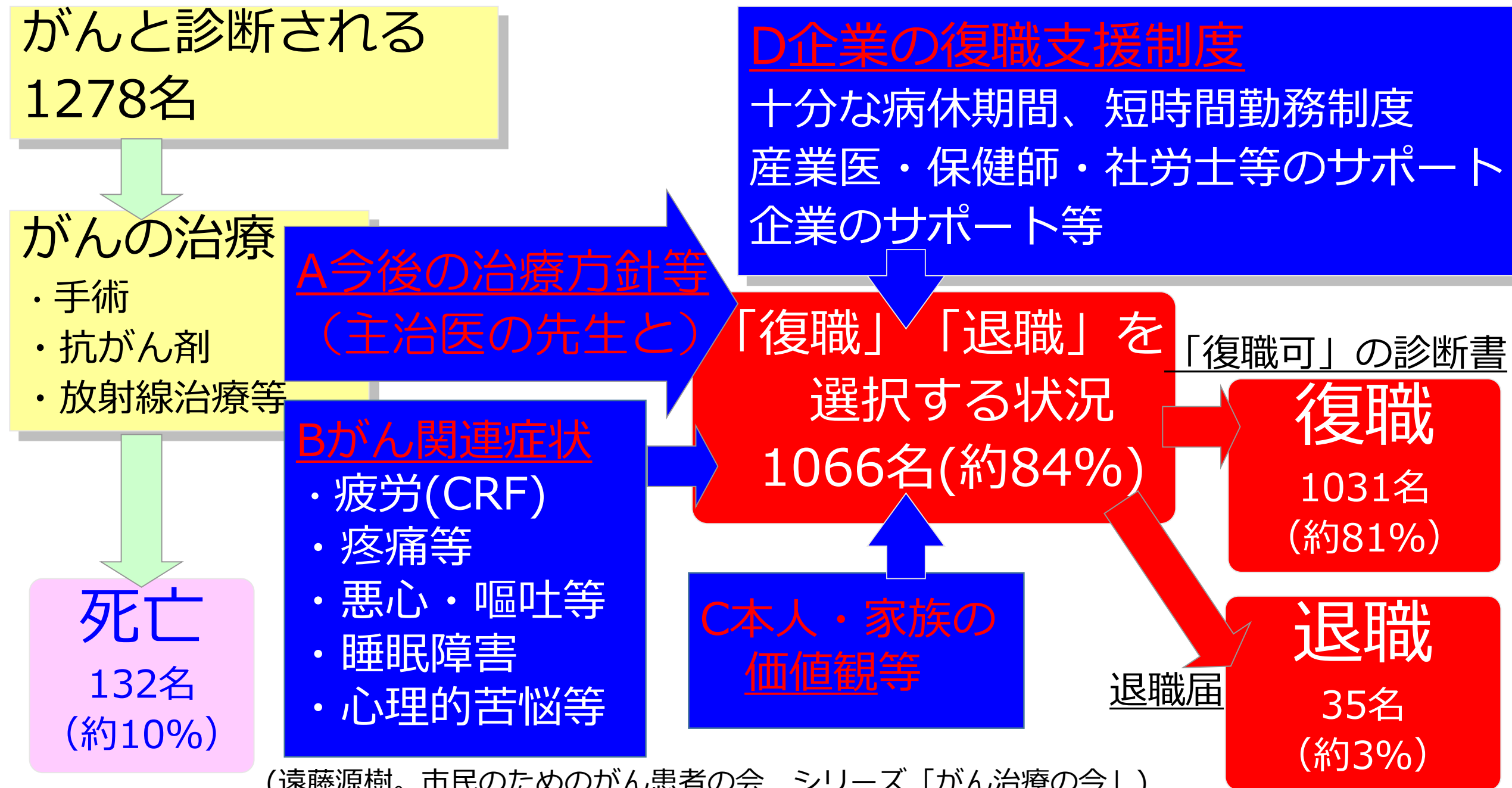


図. 復職するための4つの要素 (①②③④)

- ①日常生活に大きな支障をきたす症状がない。(疲労・症状等)
- ②復職する意思が十分にある(労働意欲)
- ③就労に必要な労働等が持続的に可能(労働能力)
- ④職場が受け入れ可能である(職場の復職支援/労働負荷)

(産業医ガイド
©遠藤源樹)

2段目 働くことができるレベル

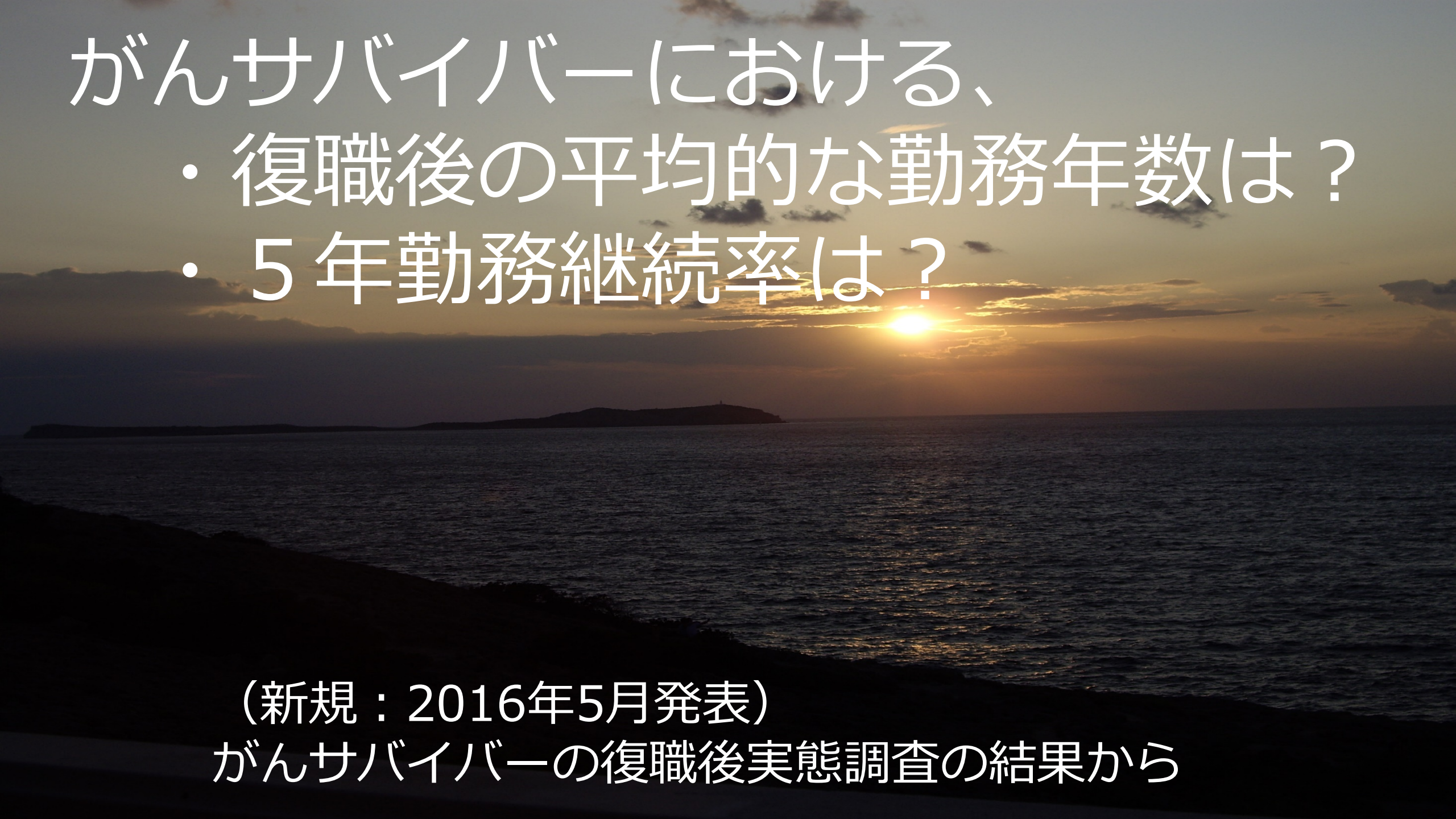
- ④職場が受け入れ可能(職場の復職支援)
- ③就業に必要な労働等が持続的に可能(就業能力)
- ②復職する意思が十分にある(就労意欲)

1段目 人として生活できるレベル

- ①日常生活に大きな支障をきたす症状がない
(疲労、疼痛等の症状の有無、睡眠、メンタルヘルス等)

復職
認定

治療

A sunset scene over the ocean with a dark silhouette of a coastline in the foreground. The sun is low on the horizon, casting a golden glow across the sky and water. The text is overlaid on the upper portion of the image.

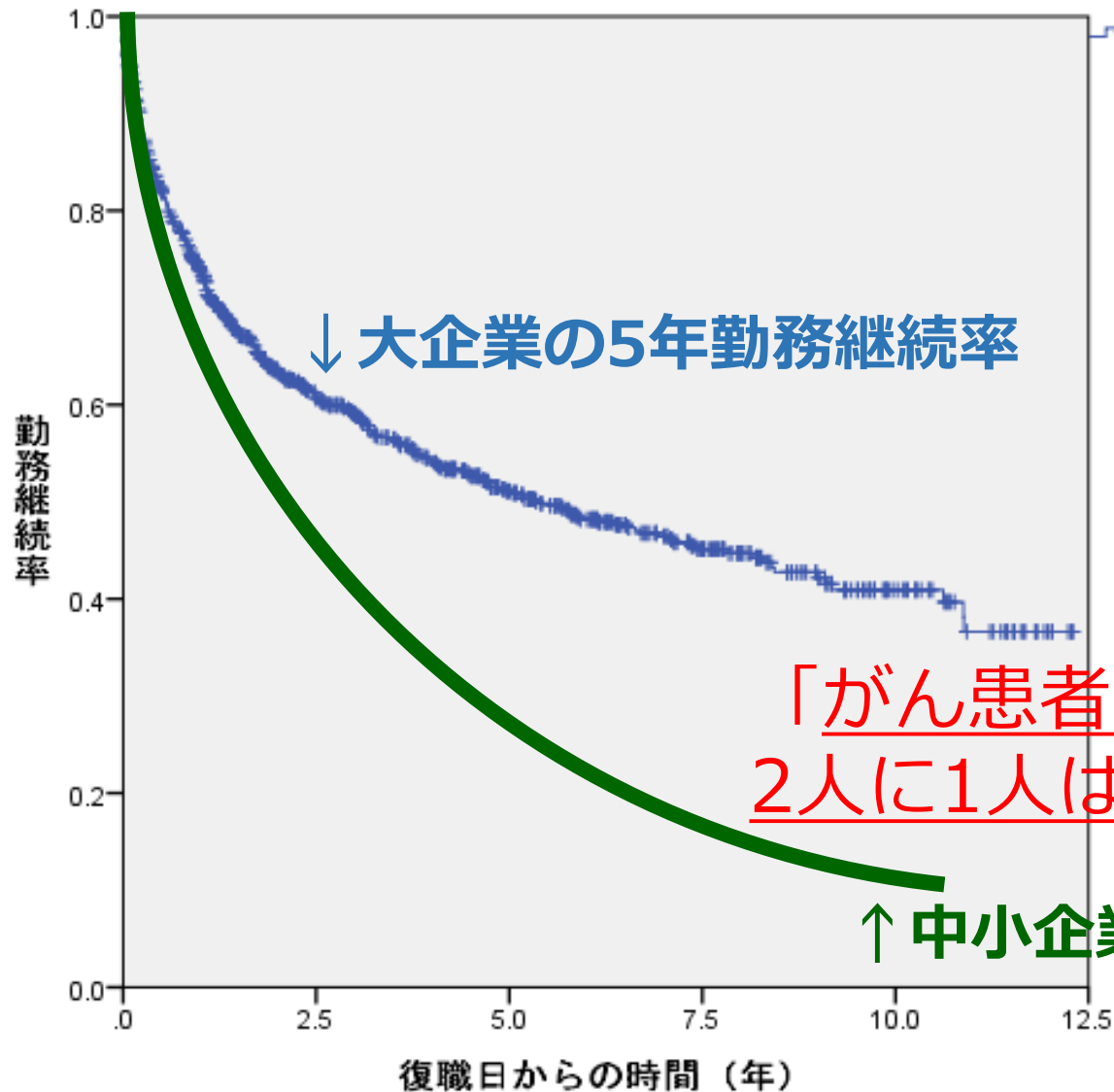
がんサバイバーにおける、

- ・ 復職後の平均的な勤務年数は？
- ・ 5年勤務継続率は？

(新規：2016年5月発表)

がんサバイバーの復職後実態調査の結果から

復職後の5年勤務継続率(←5年“勤務”生存率) 5-year “work” survival rate



復職後の5年勤務継続率(全体):

51.1%

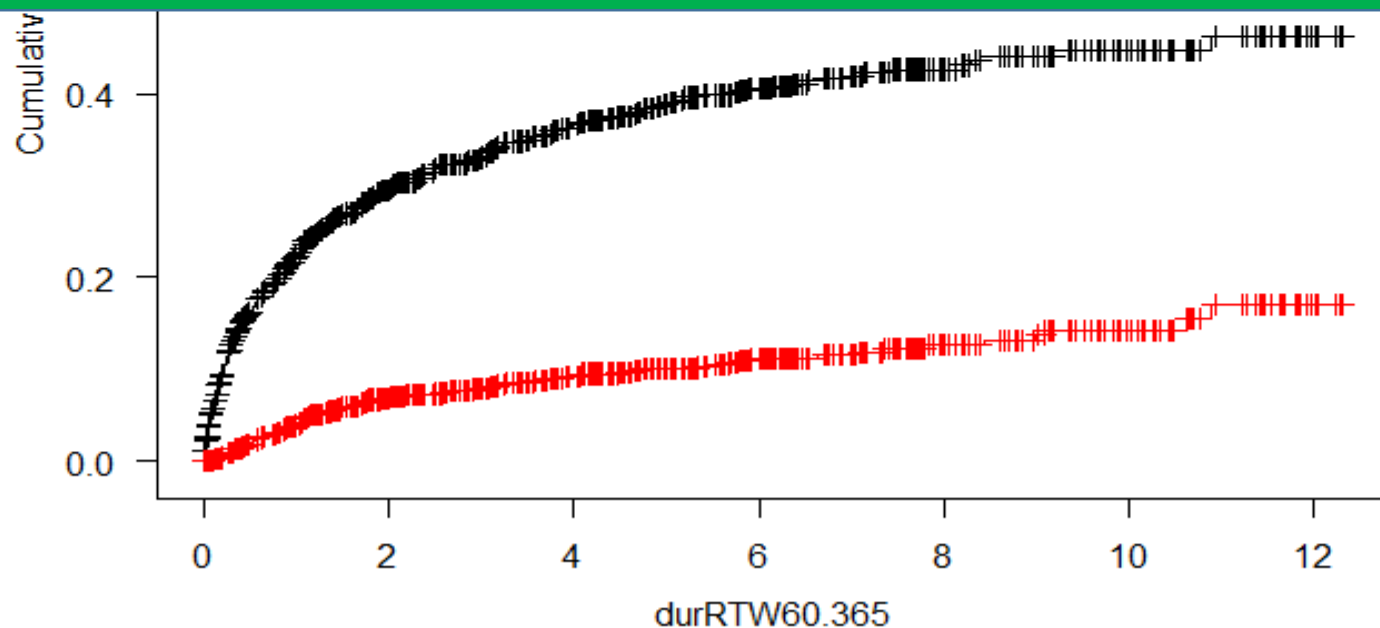
「がん患者の復職支援」を充実させれば、
2人に1人は、がん治療と就労は両立することが可能

↑ 中小企業の5年勤務継続率 (推定: 今後調査予定)

復職後2年間は、再病休が多い。
→復職日から1年を乗り越えれば、
就労と両立は半分はクリア。
→復職日から2年を乗り越えれば、
就労との両立は75%クリア。

復職後の5年再病休率（全体）
（死亡を含む）：

38.8%



復職後の依願退職率（全体）：

10.1%

（遠藤源樹。submitted 2016）

←復職後の2年間は、がんの治療と就労の両立上、とても大切